

施策番号	0101		
施策名	自然環境とくらしを気遣う環境の保全		
概要	優れた自然環境を後世に伝えていくため、自動車の排ガス対策等、自然環境、生活環境保全に向けた取組、環境問題に対する市民の理解と行動を広げる環境学習を推進する。		
担当局・部室	環境政策局・環境企画部、地球温暖化対策室	共管局・部室	
上位政策	1 環境		
施策に関係する 主な分野別計画等	京都市環境基本計画2016～2025, 京都市自動車環境対策計画(2011～2020), 京都市地球温暖化対策計画〈2011～2020〉		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		28年度	29年度	30年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウエイト
1	エコカーの普及台数(台)	a	a	62,187	73,218	72,000	101.7%	a	1.00
2	こどもたちが実践したエコライフの実施向上率(%)	b	b	9.1	8.8	10	88.0%	b	1.00
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		a	a	客観指標総合評価				a	

2 市民生活実感評価 *この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		28年度	29年度	30年度回答					
				そう思う	どちらかと言う そう思う	どちらとも言 えない	どちらか 言うそう 思わない	そう思 わない	有効回答 者数
1	京都の子どもたちは、山紫水明の自然環境をかけがえのないものと実感している。	c	c	36	125	174	59	23	417
				8.6%	30.0%	41.7%	14.1%	5.5%	
2	「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれている。	b	b	74	225	112	53	16	480
				15.4%	46.9%	23.3%	11.0%	3.3%	
3	-	-	-						
4	-	-	-						
5	-	-	-						
		b	b	市民生活実感調査総合評価					b

3 総合評価(客観指標総合評価＋市民生活実感調査総合評価)

A	施策の目的が十分に達成されている						
	重み付け	☒ 客観指標	a	☐ 市民の実感	b		
(重み付けの理由) 環境の保全のためには、自動車の排ガス対策としてエコカーを選択する市民や事業者が増えることが重要である。また環境学習は、環境に優しい行動が根付くことを目的とした長期的な取組であり、その成果はすぐには市民に実感されにくいことから客観指標に重みを置く。						29 年度	A
(原因分析) 客観指標総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。							
(原因分析) 市民生活実感調査総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。						28 年度	A

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		30年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		29年度 決算額	30年度 予算額		
1	こどもエコライフチャレンジ推進事業	25,890	24,806	良い	環境政策局
2	次世代自動車普及促進事業	14,168	8,804	かなり悪い	環境政策局
3	京都市低公害車普及促進事業	1,816	2,622	良い	環境政策局
4	生物多様性保全推進事業	37,410	40,732	かなり良い	環境政策局
5	ダイオキシン類対策	28,539	27,833	良い	環境政策局
6	大気汚染対策	205,195	208,638	普通	環境政策局
7	水質汚濁対策	120,854	114,210	良い	環境政策局
8	騒音・振動対策	65,753	65,148	良い	環境政策局
9	公害苦情処理及び公害防止事前相談	106,543	106,757	良い	環境政策局
10	不良な生活環境を解消するための支援及び措置事業	63,211	66,845	普通	保健福祉局
11	ペットの防災対策推進事業	30,568	22,833	良い	保健福祉局
12	京都市環境保全活動センター（京エコロジーセンター）	158,740	161,764	－	環境政策局
13	公衆トイレ整備	48,408	0	－	環境政策局
14	大岩街道周辺地域の良好な環境づくりの推進	8,932	5,955	－	総合企画局
15					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

- ・今後も市民や事業者、カーシェアリングや公共交通機関の利用拡大などの普及啓発を行うとともに、電気自動車等の導入や充電設備の設置促進などにより、電気自動車や低公害・低燃費車等のエコカーへの転換を図っていく。
- ・環境学習については、身近な生活（食、消費、交通等）や京都の都市特性（山紫水明の豊かな自然環境、自然と共生してきた文化・こころ等）を活かした幅広い取組を促進することで、市民の環境保全に関する理解や意識の向上を図るとともに、環境保全に関する自主的な行動につなげる。
- ・以上のことにより、市民生活実感の更なる向上を図り、自然環境とくらしを気遣う環境の保全を推進する。

施策名	0101	自然環境とくらしを気遣う環境の保全				
-----	------	-------------------	--	--	--	--

指標名	エコカーの普及台数(台)					
-----	--------------	--	--	--	--	--

担当課	環境管理課	連絡先	2 2 2 - 3 9 5 1		
-----	-------	-----	-----------------	--	--

1 指標の説明

EV（電気自動車）、PHV（プラグインハイブリッド自動車）、HV（ハイブリッド自動車）及びCNG（圧縮天然ガス自動車）等の京都市内での普及台数

2 指標の意味

環境の保全のためにエコカーの選択、普及状況を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：各種エコカーの台数を加算
出典：軽乗用車は(一社)全国軽自動車協会連合会及び本市市税事務所納税室納税推進担当、それ以外は(一財)自動車検査登録情報協会の情報による

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	27年度	28年度		数値	根拠	達成度
数値	62,187	73,218	11,031台増	72,000	平成32年度の数値目標達成のために当年度達成すべき数値	101.7%

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値		12万	32年度	61.0%	京都市自動車環境対策計画<2011～2020>	算定に用いるデータの収集時期の関係から、平成28年度値が最新となる。

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：80%以上
b：60%以上～80%未満
c：40%以上～60%未満
d：20%以上～40%未満
e：20%未満

6 基準説明

当該指標については、社会・経済情勢などの影響により、EV・PHVの生産量等が不安定となる場合があり、不確定要素が比較的多いことから、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

28	29	30
a	a	a

1 指標の説明

家庭部門における温室効果ガス排出量の削減に向け、市内の全ての市立小学校において実施するこどもエコライフチャレンジについて、参加者全ての家庭でのエコライフ取組成果の集計データを100点満点で数値化し、取組前と取組後の数値の差異（すなわち改善度）を示している。

2 指標の意味

各家庭でのこどもたちのエコライフの取組成果について、取組前の数値から10ポイント向上することを目標としている。

3 算出方法・出典等

算出方法：取組後実施度－取組前実施度
出典：エコライフチェック実施結果より

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	28年度	29年度		数値	根拠	達成度
数値	9.1	8.8	0.3ポイント減	10	取組改善率が10ポイント向上する	88.0%

	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値						

5 評価基準

最新数値が
a：10以上
b：7.5以上～10未満
c：5以上～7.5未満
d：0以上～5未満
e：0未満

6 基準説明

毎年、当該事業に参加するこどもたちが変わるため、単年度評価指標を設定。こどもたちのエコライフの取組が、取組前から10ポイント向上することを目指している。

7 評価結果

28	29	30
b	b	b